

ながさき・・・いいかも。

長崎県の初期臨床研修の広報活動を行う新・鳴滝塾が皆さんの研修病院選ををサポートする全3回連載、今回は第2回目です。引き続き熱く語ってくれたのは事務局長の浜田久之先生。今回は、地方と都会の研修事情についてこんなことを教えてくださいました。

- ・長崎の病院では、実際に経験できる症例数や手技数が多い。さらに国内外の留学制度もある。
- ・住みやすい環境でプライベートも充実させよう
- ・長崎にはいい指導医がたくさんいるよ！

あれ、新・鳴滝塾の話がない。先生、今月こそはその話を……。[いやいや、医学生が興味をもってくれそうな話がまだまだたくさんあるんだよ^^]。打ち合わせとだいぶ違ってきましたが、本当にこれでよろしいのでしょうか。今回は、海外と日本の研修についての紹介です。

第2回 欧米と日本の研修事情

北米の医療は、常に競争

医師という職業には社会的な成功者というイメージが強い。欧米だってそれは同じだけど、日本とは比べものにならないくらい競争が激しい。特に北米では受験はもちろん、医学生、ジュニアレジデント、シニアレジデントとどの段階でも常に他人との競争になるのが当たり前。そういう文化なんだ。明確な目標とstrategyをもつ者だけがその中で勝ち抜いていける。だから、授業や研修の場で“Any question?”と問われて手を挙げないやつなんていない。一般的に欧米（特に北米）では18歳で経済的に独立させられるため、卒業までに日本円で600万～800万円、多いと1,000万円もの学生ローンを本人が抱えるのが普通という背景があるんだよ。借金を返すためには成功、すなわちお金を稼ぐことが必須となる。また、政情不安がある国も多いから、身分保障も心配だね。だから、いいポジションを得るための、北米のマッチングは非常に厳しい。平均6～10の病院を受ける。競争率もすごい。実際に北米のマッチングの面接を見学したけど、ああ日本人でよかった、と思ったよ（笑）。

「医師余剰」の足音が聞こえる

医師免許をもっていても、政情不安や競争システムの中で、常に医者への身分が保障されている国は少ない。カナダでもイタリアでも、元医師というタクシー運転手は決して珍しくない。僕がカナダ留学中にお世話になったアパートの管理人さんは、過去にロシアで循環器の医師をしていた。日本はいま医師不足で売り手市場だけど、病床数が減っているのに医学生の増員や医学部新設が検討されている……とあれば、医師余剰の時代は近い将来必ずやって来る。実際、歯科医師は、

飽和状態と言われている。薬剤師もここ数年でかなり増える。医療費の抑制はすでに叫ばれているし、国民皆保険の存続だってどうなるか分からない。TPPが医療にまで及んだとしたら外国人医師とも競争するようになるかもしれない。これを読んでいる君は、40歳になって医師余剰の時代が訪れたときに勝ち抜ける自信はあるかい？いや、勝ち抜く自信を今からつけよう！

日本の研修で大丈夫なの……？

僕は、欧米型の研修システムやキャリア形成がいいとは思わない。むしろ、日本の方がいいと思う。自分で自分の将来像をイメージし、社会情勢を見極めながら戦略を練ることは日本でも必要だ。初期研修は、医師として生き残るための胆力を養う場。ここで楽を覚えたら、一生楽することばかり考える人になってしまうからね。厳しい臨床、カンファレンス、同期との切磋琢磨、指導医などからの叱責もみんな栄養にする！という意気込みで、あえて自分に厳しさを課すことで将来に光がみえてくる。もう一つ大切なのは既成概念にとらわれないチャレンジ精神、つまり小さくまとまるってこと。人生は長いんだから、いろんな人に出会い経験を積んでほしい。マッチングは就活ではなく、人生の修行の場を決める作業だと認識しよう。その一方で、キャリアデザインのサポート体制がしっかり整っているかをチェックすることも忘れちゃいけない。最高の研修病院とは、君たちの中にある未知の力を引き出し育てていこうという意欲に満ちた専門スタッフとそのためのシステムがある病院なんだ。

(第3回へつづく)

Dr. Hama-chan



●浜田久之のprofile (研修医は除くハマちゃんと呼んでいる)
新・鳴滝塾事務局長。内科医。大学を卒業後、地域医療に携わる。長崎医療センター総合診療科病棟の立ち上げを行った後、医学教育を学ぶためトロント大学へ留学。平成23年より長崎大学病院医療教育開発センター教授に就任し、研修医教育に従事。

新・鳴滝塾とは

長崎県にある17の研修病院への見学・実習のコーディネートをはじめ、それぞれの病院の魅力を伝えるためにさまざまな広報活動などを行っています。地域医療や離島での研修に興味があるんだけどな～、初期研修が始まってから、自分がどんな医師になりたいのか色々考えよ～と思っている皆さん、新・鳴滝塾にはこんなサポートがあるので、ぜひ知っておいてください。

ココが凄い③ 海外・地域医療研修への参加をサポート！

ココが凄い④ 優秀な指導医育成のため、定期的に講習会を開催！

新・鳴滝塾では地域医療研修など院外研修の旅費だけでなく、トロント大学の「INTAPT」プログラムをはじめ海外の教育研修への参加もサポートしてくれます。自分のしたいことがすぐにできる、長崎県にはそんな研修環境が整っています。また、定期的に指導医育成のフォローも行っているのも、皆さんの「未知の力を引き出してくれる専門スタッフ」が、長崎県内の病院いたるところに揃っています。みんなで一緒に成長していくのを、ぜひ実感してください。



★：今月号で紹介している病院。その他の病院は、2月発行の『Kokutai 準備号』で紹介します。

※前号（1月号）では佐世保中央病院、長崎県島原病院、長崎医療センター、長崎原爆病院、長崎北徳洲会病院、長崎県上五島病院を紹介しました。

2012年3月4日（日）に長崎県病院合同説明会を開催します。
 詳細は下記ホームページにて告知します。

『Kokutai』編集部も参加します！

■新・鳴滝塾ホームページ <http://www.narutaki-jyuku.jp/>
 TEL：095-865-8351 MAIL：info@narutaki-jyuku.jp ■担当：林田

新・鳴滝塾 検索